

ヘン・サムリン政権下カンボジアにおける 教育改革と教科書にみる国家像

羽 谷 沙 織

はじめに

1979年1月、ヘン・サムリンは人民革命評議会議長に就任し、カンブチア人民共和国 (People's Republic of Kampuchea 1979—1989) を樹立した。このカンブチア人民共和国 (通称ヘン・サムリン政権) は、ベトナム軍の支援を受けながら社会主義国家の建設を目指した。ヘン・サムリン政権下は、ポル・ポト政権 (民主カンブチア Democratic Kampuchea 1975—1979) による極端な共産主義にもとづく独裁政治が終結してから間もない1980年に教育制度改革を実施した。さらに1986年にも行った。破壊された教育システムを早急に再構築する必要から、1980年、教育年限を4・3・3制に短縮して国民教育を再開した。1986年、5・3・3制に拡大した。カリキュラム改革も1980年と1986年の2度実施した。これらの教育改革は、その後のカンボジアの国民教育の基礎を形成した。

カンボジアでは内戦によって約170万人から200万人が命を落とした¹⁾。国家再建に取り組むなかで、生き残った国民をどのように教育するかという問題は内戦後からの一貫した課題である。本稿は、1980年の教育制度改革に着目し、カンボジアの若い国民に何を教えようとしたのかを国定教科書を手掛かりに考察する。教科書のなかで、新政府が望ましいと考える国家像はどのように描かれたのだろうか。本稿では、第一に、ヘン・サムリン政権の政治思想を概説し、第二に、1980年教育制度改革の足取りを追い、第三に、新政府が望ましいと考える国家のあり方が教科書のなかでどのように描かれたのかについて考察する。考察にあたり、国民国家の形成と深くかかわっていると考えられる3つの科目、すなわち芸術、クメール語、道徳と政治教育を取りあげる。

ところで、カンボジアの1980年代に関する研究は、管見の限りではあるが決して多くない。

その理由は、ポル・ポト、シハヌーク、ソン・サンから成る三派連合がカンボジアの政権であり、ヘン・サムリン政権はベトナム軍の傀儡とみなされ、国際的に孤立していたからである²⁾。西側諸国と国連から承認を得られなかったカンボジアの1980年代は、いわば空白の10年間であり、西側諸国の研究者が研究に取り組むことは不可能であった³⁾。本稿はこの空白を補完し、ポル・ポト後のカンボジア研究に貢献すると考える。

なお、本章の考察は、1980年代初頭に作成された教科書、政策文書などの一次資料の翻訳・分析にもとづく。教科書と政策文書の収集は、2008年3月、教育省学校管理局教授学研究課の資料室にて行った⁴⁾。この資料室の実態は、蔵書とともに壊れたタイプライターやコンピュータが雑然と置かれた倉庫のような場所である。蔵書はまったく分類されておらず、本棚に無造作に押し込められているか、床に積み上げられていた。管理が行き届いているとは言い難く、データベース化もされていない。したがって、入手できる資料は非常に限られた。そもそも、1980年代に作成された教科書や政策文書は、粗悪な紙に印刷された。さらに資料室の湿気や埃によって保存状態は極めて悪い。虫に食われ判読できないものも少なくなかった。このような事情から、本章で検討することができる教科書・政策文書には限界があり、分析に制約をもたらすものとなった。

1. ヘン・サムリン政権の政治思想

(1) 政治思想

1978年12月2日、「カンブチア救国民族統一戦線・報告書」が作成された。その冒頭は、以下のように始まる。

「敬愛する人民のすべてよ！敬愛する兄弟姉妹，党幹部，男子戦闘員，女子戦闘員よ！敬愛する同盟国よ！長い間，カンボジアは植民地主義，帝国主義，封建主義のもとに置かれてきた。そのような状況下であっても，われわれの兄弟姉妹，党幹部，男子戦闘員，女子戦闘員はみな上質の伝統を培ってきた。われわれの先祖たちはみな，あらゆる分野において労働に進んで取り組み，戦闘員たちはみな，フランスの植民地支配からカンボジア人民の独立と平和を取り戻すために勇敢に戦ってきた。また，戦闘員たちはアメリカの帝国支配から人民を救済するために戦乱に立ち向かってきた。

新しい社会主義は，われわれ人民に平和と正義をもたらし，人民は輝く勝利を手にすることができる。独立国家カンボジアは，平和のなかに生きることができる。また国家再建と社会主義国の団結に参加するための力と体と心を保持することができる。東南アジアおよび世界のなかでカンボジアは平和，独立，自由を謳歌するのだ。

しかし，ここで明らかなのは，3年以上にわたる残忍な帝国主義の歴史である。ポル・ポト，

イエン・サリは権力を掌握し、祖国と人民を裏切ったのだ。災いを引きおこし、われわれ人民の国家を崩壊に貶めた。この惨事は中国の支援によって行われたのである。われわれはボル・ポトに蝕まれた国を解放し、まもなく社会革命を始める。社会のなかから悪を一掃し、社会を一新する。やつらは首都や市場を消滅させ、われわれに家や財産を捨てさせ、農村へ強制移住させた。極度の貧困のなかで、人びとは重労働のためにむごたらしい死に追いやられた。あいつらは、われわれの両親、兄弟、夫婦、友人の誇りを奪い、祖国を破壊した。祖国こそは、われわれがいにしえから守り抜いてきた誇りの源である」[カンプチア救国民族統一戦線 1978, 1-3]。

政権の交代を予期したヘン・サムリンは、人民を鼓舞し、社会主義が人民に平和と正義をもたらす点を強調した。カンボジアが2度にわたる抑圧、すなわち、フランス植民地主義やアメリカ帝国主義など外国による侵略、ボル・ポト、イエン・サリによる国家破壊を強いられてきた点も強調した。とくにボル・ポトによる虐殺を痛烈に批判することで、国民の怒りをボル・ポトに向けさせ、共通の敵と位置づけた。このような政治理念をもとに、1979年1月10日、ヘン・サムリンはカンプチア人民共和国（People's Republic of Kampuchea 1979—1989）を樹立した。マルクス＝レーニン主義の看板を明確に掲げ、ベトナム、ラオスおよびキューバを含むソ連・東欧圏諸国などの社会主義国家との関係を重視した。

(2) 国家政策

カンボジアはベトナム駐留軍の厳しい統制の下に置かれ、一党独裁政権のもと綿密に計画経済を実施した。経済活動全般に国家の主導的役割を強調し、国家と人民の利益が合致するよう進められた。すべての土地は国有となり、家・土地の個人的所有は認められなかった。農作物の栽培は共同で耕作することが推進され、生産増大団結班（クロムサマキ・ボンコーボンカウンプル）が採用された。この団結班の第1のねらいは、兵役によって減少した男性労働力を補い、農具・役牛等の生産手段を効率よく利用することであった。第2のねらいは、労働力と生産手段を均等に分配し、労働人口の80%を抱える農業部門を早期回復することであった。第3のねらいは、人民の政治的コントロールを容易にすることであった [佐藤 2007, 1-2]。1983年には「愛国的貢献」と呼ばれる税制度も導入され、計画経済が着々と進められた [天川 2001, 48]。

(3) 教育・文化政策

1981年、カンプチア人民共和国憲法を制定した。そのなかで、教育および文化政策に関しては、民族的、進歩的文化の建設を進める反面、反動的、退廃的文化の影響や残滓を禁止した。教育政策は、学習と実践、教育と生産、教育と社会とを連携することを重視した。新生カンボ

ジアでは、マルクス・レーニン主義にもとづく人間の全面的発達を目指そうとする教育が柱となった。憲法では、国家による初等教育、中等教育、高等教育の建設および非識字者を撲滅するための就学前教育と成人識字教育の推進を規定した（憲法第22条）。つまり、エリート教育ではなく一般大衆教育の実現を推進した。このほか、「国および人民に有益な」学術・科学技術研究の奨励と「社会主義兄弟国家」との学術交流の推進（憲法第23条）、スポーツおよび体育の奨励（憲法第25条）も定めた。これらの達成を国家の義務とした。

また、文化政策に関しては、歴史的モニュメントや工芸品を保護し、国民のための遺跡や観光地を再建すること、諸外国との文化交流を促進することが明記された（第24条）。1985年、情報文化省は「第5回人民革命党大会を記念して—カンボジアの文化復興—」（以下、文化復興提案）を提出した。国民文化の発展を推進するための5項目を掲げた⁵⁾。その内容は、①人民のために革命精神を教育する、②プロレタリアの愛国的および国際的精神を鼓舞する、③国民的および民俗的特殊性を維持しつつ、文化と芸術の正統的なアイデンティティを復興する、④国民的および人民的性格をもつ社会主義的文化的芸術的基盤を建設する、⑤世界の他の国々の進歩的文化と芸術を吸収するというものであった〔高橋1996, 204—205〕。この文化復興提案のなかでは、すべての文化財、歴史遺跡およびボル・ポトなどの犯罪の証拠を保存することも定めた。たとえば、ボル・ポト時代に拷問・処刑場として使われていた高校の旧校舎の保存である。これは現在、国立ツール・スラエン虐殺博物館（S21）と呼ばれ、ボル・ポトによる虐殺、拷問の歴史を可視化する場となっている。このほか、カンボジア・ベトナム友好記念碑もプノンベンのシハヌーク通り沿いにある広場に建てられた。カンボジアの国民意識をめぐり記憶の場として現在でも目にすることができる。

2. 1980年教育制度改革

(1) 4・3・3制の開始

新政府は、1980年2月26日に国民教育を再開することを通達し、9月24日に新年度を開始した〔コロク2003,94〕。当時のカンボジアの人口は約670万人、初等学校児童数は947,317人、教員数21,605人、小学校数5,290校であった〔Ayres 2000,138〕。前期中等学校生徒数は5,104人、教員数296名、学校数14校、後期中等学校生徒数は301名、教員数20名、学校数1校であった。

表1に示すとおり、新政権は教育制度を4・3・3制に改めた。すなわち初等学校4年間、前期中等学校3年間、後期中等学校3年間であった。年間33週とし、週24時間であった。月曜日から土曜日までの週6日制を採用した。ボル・ポト以前の1975年までの教育制度は、フランス植民地期のものを採用した。6・4・3制すなわち、初等学校6年間、前期中等学校4年間、後期中等学校3年間であった。これに対して、新しい制度はまず初等学校の再建を図る目的か

ら、初等学校段階を2年短縮して学校教育を再開した。前期中等学校段階は1年短縮した。この新しい4・3・3制の教育制度はベトナムの10年教育課程に準拠して整えられた。教育分野に必要な人材を育成するため、2校の教員養成教学校が再設された。教育省は以前の教育大学を1979年5月15日に教育省政治学校として再開校した。バット・ドムボン州でも教員養成学校をスタートさせた。ボル・ポト時代から生き残った知識人、旧教員のなかから人材を選び、これらの学校で1か月から2か月半までの短期の研修プログラムを実施し、教員養成・再訓練を実施した。

表1 教育年限の変遷

フランス植民地下の教育	6・4・3制
1958年教育制度改革	6・4・3制
1967年教育制度改革	6・4・3制
クメール共和国（1970—1975）	6・4・3制
民主カンプチア（1975—1979）	教育制度の廃止
1980年教育制度改革	4・3・3制
1986年教育制度改革	5・3・3制
1996年教育制度改革	6・3・3制
2005年教育制度改革	6・3・3制

出所 筆者作成。

高等教育に関しては、各学部が独立する形で運営された。芸術大学は情報文化省（現在の文化芸術省）の直接管理のもと運営された。教育省は大学の調整と運営管理上の監督を行うだけで、教育内容に関しては情報文化省が責任を持った。計画経済体制のなかで、入学当初から卒業後の就職が保証され、すべての卒業生は公務員として採用された〔コロク&西野2009 a,27〕。

教育再建は、カンボジアの自助努力だけでは間に合わず、外国からの援助も必要とした。国連はUNICEF（国際連合児童基金）、UNHCR（難民高等弁務官事務所）、WFP（国際連合世界食糧計画）の3つの機関に限って、学校建設、識字教育、食糧・飲料水の供給、教材設備、専門家派遣、保健医療の緊急援助を展開した〔ミリシビエッチ1992, 110-113〕。2国間援助を重点的に展開したのは旧ソ連、ベトナムなど東側諸国であった。旧ソ連の援助額は年間1億米ドルと見積もられ、最大の拠出国であった。社会主義イデオロギーの普及を目的に技術援助、軍事援助を提供した。具体的には、農業、燃料の供給、発電、通信、道路整備、繊維・ゴム、衣服、医療、鋼材、チッソ肥料など広範な援助を実施した。東欧諸国では東ドイツ、ブルガリアが病院整備、電話網整備、タバコの供給を行った〔ミリシビエッチ1992, 113-116〕。ベトナムからの資金援助は年間2500万米ドルであった。援助内容は技術援助、軍事援助が中心であり、道路整備、農業投資、セメント・プラスチックの供給、種もみ（60トン）供給、診療所開設、

ラジオ局開設, 製材所開設, 貯水池整備などを展開した。

旧ソ連やベトナムからの支援は, 両国の援助は教育分野に大きな影響を与えた。高度な専門知識を持つ大学教授の多くが虐殺された高等教育機関においては, ロシア人教授, ベトナム人教授が高等教育をけん引する役割を担った。さらに, これら国の専門家が中心となって, 基礎教育分野を中心とする教育再建にも関わり, 教科書作成, カリキュラム改革などを実施した。1980年, クメール語で書かれた39冊の教科書が公布された。これらの専門家たちは, ベトナム語の教科書をそのまま翻訳するという指導を行った [Clayton 2000, 115]。カリキュラム内容の検討・改善に関しては, ベトナム人専門家の検閲, 許可を受けることが必要とされた。カンボジア人によって書かれた教科書は, 印刷・出版の前にベトナム人顧問の許可が必要であった。教育行政システムは, 中央集権的なあり方からベトナムが推進する地方分権化へシフトした。

(2) 初等教育カリキュラム

表2に示すように, 内戦以前の初等学校では, 倫理, 公民, クメール語, フランス語, 算数, 歴史, 地理, 理科と衛生, 労働, 体育の10科目が教えられた。しかし, 1980年になると, 道徳, クメール語, 歴史, 地理, 理科, 算数, 実践知識, 絵画, 芸術, 労働, 体育の11科目に増えた。フランス語はカリキュラムから排除された。倫理と公民は統合され, 新たに道徳と政治教育として扱われた⁶⁾。実践知識, 絵画, 芸術の3科目が新設された。教授言語はクメール語とした。ただし, 1980年のカリキュラムに改革で定められた各教科の学習時間についてはデータがなく, 明らかでない。

表2 1955年と1980年小学校授業科目の比較

1955年カリキュラム (10科目)	1980年カリキュラム (11科目)
倫理	道徳と政治教育
公民	
クメール語	クメール語
フランス語	
算数	算数
歴史	歴史
地理	地理
理科と衛生	理科
労働・製図 (manual work and draughtsmanship)	労働 (manual work)
	実践知識
	絵画
	芸術
体育	体育

出所 UNESCO (1955) 54頁および Ayres (2000) 31頁をもとに筆者作成。

(3) 前期中等学校カリキュラム

前期中等学校（5年生、6年生、7年生）のカリキュラムでは、表3に示す通り、道徳と政治教育、クメール語、歴史、地理、数学、物理、生物、化学、その他の合計9科目が設置された。小学校で学習する労働、実践知識、絵画、芸術、体育の5科目が削除された。かわりに理科が物理、生物、化学に分けられ増設された。教授言語はクメール語であった。学習時間は週24時間とされた。

表3 1980年—1986年の前期中等学校における教科と1週間あたりの学習時間

	教科名	前期中等学校			
		5年生	6年生	7年生	比率 (%)
1	道徳と政治教育	1	1	2	5.56
2	クメール語	5	5	5	22.22
3	歴史	1	1.5	1.5	5.56
4	地理	2	1.5	1.5	6.94
5	数学	6	6	6	25
6	物理	0	2	3	6.94
7	生物	2	2	2	8.33
8	化学	0	0	3	4.16
9	その他	6	5	0	15.28
	合計	24	24	24	100

出所 Va (2006) 143 頁をもとに筆者修正。

これら9科目を学習時間が多い順に並べると、数学、クメール語、生物、物理、地理、歴史、道徳と政治教育、化学となった。9科目のなかでもっとも学習時間が多かったのは数学であった。5年生から7年生まで週6時間を学習した。これは、5年生から7年生までの3年間に学習する9科目全学習時間のなかの25%の割合を占めた。つぎに学習時間が多かったのは、クメール語である。5年生から7年生まで週に5時間が充てられた。クメール語の学習は、5年生から7年生までの3年間に学習する全学習時間のなかの約22%を占めた。つぎに高い頻度で学習するのはその他の授業であった。5年生では週6時間、6年生では週5時間学習した。7年生においては扱われなかったものの、その他の授業は全学習時間の約15%を占めた。数学、クメール語、その他の学習を合わせると全体の62%の割合となり、これら3科目に高い比重が置かれた。

生物については、5年生から7年生まで週2時間が充てられた。これは、約5年生から7年生までの3年間に学習する全学習時間のなかの8%を占めた。つぎに、物理については、5年生は学習せず、6年生において週2時間、7年生において週3時間学習した。5年生から7年生までの3年間に学習する全学習時間のなかの約7%を占めた。地理については、5年生で週2時間を学習した。6年生と7年生は週1.5時間であった。全学習時間の約7%であった。つぎに、

歴史については、5年生において週1時間、6年生と7年生において週1.5時間であった。全学習時間の6%を占めた。道徳と政治教育に関しては、5年生と6年生において週1時間、7年生では週2時間を学習した。全学習時間の6%であった。1980年の前期中等学校カリキュラムにおいて学習時間がもっとも少なかったのは、化学であった。5年生と6年生では学習せず、7年生に週3時間が学習した。これは全体の4%であった。

(4) 後期中等学校カリキュラム

表4に示すとおり、後期中等学校(8年生、9年生、10年生)のカリキュラムにおいて、道徳と政治教育、クメール語、歴史、地理、数学、物理、生物、化学、その他の9科目が設置された。前期中等学校において学習する科目数と同じである。これら9科目を学習時間が多い順に並べると、数学、クメール語、物理、化学、その他、生物、道徳と政治教育、地理、歴史であった。数学は、8年生と9年生においては週6時間学習し、10年生は週5時間学習した。これは、8年生から10年生までに履修する全学習時間の約24%に当たる。クメール語については、8年生と9年生においては週4.5時間、10年生においては週4時間が充てられた。全体の18%であった。物理については、8年生において週2.5時間、9年生において週3時間、10年生において週4時間であった。全学習時間の約13%を占めた。化学については、8年生において週1.5時間、9年生においては週2時間、10年生においては週3時間と定められた。全体の約9%であった。つづいて、その他の授業については、8年生において週2.5時間、9年生において週1.5時間、10年生において週1時間学習した。全体の約8%を占めた。生物については、8年生から10年生までの各学年において週2時間ずつ学習することとされた。これは全体の約8%にあたる。道徳の授業については、8年生から10年生まで週2時間ずつの学習時間とされた。全体の約8%

表4 1980年—1986年の後期中等学校における教科と1週間あたりの学習時間

	教科名	後期中等学校			
		8年生	9年生	10年生	比率(%)
1	道徳と政治教育	2	2	2	8.33
2	クメール語	4.5	4.5	4	18.06
3	歴史	1.5	1.5	1.5	6.25
4	地理	1.5	1.5	1.5	6.25
5	数学	6	6	5	23.61
6	物理	2.5	3	4	13.19
7	生物	2	2	2	8.33
8	化学	1.5	2	3	9.02
9	その他	2.5	1.5	1	8.33
	合計	24	24	24	100

出所 Va (2006) 143頁をもとに筆者修正。

であった。1980年の後期中等カリキュラムのなかで、もっとも学習時間が少なかったのは、地理と歴史であった。両科目ともに、8年生から10年生まで週1.5時間の学習時間とされた。全体の約6%であった。

(5) カリキュラムの特色

1980年の初等学校カリキュラムでは、フランス語の授業が削除された。内戦以前のカンボジアはフランスの影響を強く受けた。しかしながら、ヘン・サムリン政権はカリキュラムからフランス語を削除し、フランスの影響を取り除こうとした。1980年の初等学校カリキュラムには、外国語の授業が設置されなかった。同様に、中等学校カリキュラムにおいても、外国語科目は設置されなかった。ただし、Clayton (2000)によると、中等学校において限定的ではあるが、1週間に2時間のベトナム語とロシア語の外国語授業があった [Clayton 2000, 115]。当時のカンボジアは、多くの教師不足が虐殺されたため、外国人教員に頼らざるをえない状況であった。ベトナムやソ連から派遣された大学教員が中等教育段階での教員不足を補うために、ベトナム語、ロシア語を教えたと考えられる。

中等学校カリキュラムは、数学とクメール語を重点的に学習するよう配置された。さらに生物、物理、化学といったハード・サイエンスの分野にも多くの学習時間を配分した。識字能力と理数的思考力を持ち合わせた専門的な人材を少しでも多く育成したいというねらいがあった。

3. 教科書にみる国家像

(1) 芸術科の教科書

ここからは教科書の内容を取り上げる。具体的には芸術科、クメール語、道徳と政治教育の3つの教科書に着目し、どのような記述が展開されたのか考察する。1979年に印刷された芸術科の教科書には、「詩と歌」という副題が付けられた。表5に示すとおり、芸術科の教科書は、就学前教育、初等教育、前期・後期中等教育を総合的にまとめた1冊の本であった。教科書の最初の頁には、カンボジア国歌が掲載された。教科書には、児童・生徒が学習発表会や国家行事の際に歌や踊りを披露する挿絵が多く掲載された。学習内容は詩と歌の領域に分かれ、それぞれ5課ずつ設けられた。就学前教育の詩の領域では、「尊く清い革命の旗のもとで」(第3課)、「白いハトを歓迎する」(第4課)を学習した。就学前教育における歌の領域では、「労働は楽しいな」第8課、「白いハトと仲良くしている子ども」(第9課)を学習した。

つづいて、初等教育における詩の領域では、「よい生徒」(第11課)、「勉強の価値」(第13課)、「私は賢い生徒」(第14課)を扱った。歌の領域では、「労働」(第16課)、「平和のハト」(第

17 課) が学習された。前期・後期中等教育の詩の領域では、「首切り集団を追放するために団結する」(第 21 課), 「闘争」(第 22 課), 「戦争と平和」(第 24 課), 「私は祖国を愛する」(第 25 課) を扱った。前期・後期中等教育の歌の領域では、「平和」(第 26 課), 「私たちは祖国を守る」(第 29 課) を扱った。

表 5 1979 年印刷 芸術「詩と歌」の教科書目次 (就学前から中等教育)

国歌			
就学前教育において学習する詩		就学前教育において学習する歌	
第 1 課	家を出るときの歌	第 6 課	私たちは学校へ行く
第 2 課	私たちは学ぶ	第 7 課	赤いバラ
第 3 課	尊く清い革命の旗のもとで	第 8 課	労働は楽しいな
第 4 課	白いハトを歓迎する	第 9 課	白いハトと仲良くしている子ども
第 5 課	宇宙	第 10 課	私たちは覚えている
初等教育において学習する詩		初等教育において学習する歌	
第 11 課	よい生徒	第 16 課	労働
第 12 課	教科科目はすべて大事	第 17 課	平和のハト
第 13 課	勉強の価値	第 18 課	元気なよい子ども
第 14 課	私は賢い生徒	第 19 課	新しい子ども
第 15 課	私の学校にある野菜園	第 20 課	スポーツは良薬
前期・後期中等教育において学習する詩		前期・後期中等教育において学習する歌	
第 21 課	首切り集団を追放するために団結する	第 26 課	平和
第 22 課	闘争	第 27 課	友情
第 23 課	いつまでも覚えている	第 28 課	カンボジアの元気な息子
第 24 課	戦争と平和	第 29 課	私たちは祖国を守る
第 25 課	私は祖国を愛する	第 30 課	太陽が昇る

出所 教育省 (1979) 芸術「詩と歌」教科書をもとに筆者作成。

このように、芸術科の教科書では、低学年の段階から革命、闘争、労働、戦争と平和について学習した。たとえば、第 3 課の詩の具体的な内容は以下の通りである。

(例 1) 「尊く清い革命の旗のもとで」(第 3 課)

「尊く清い革命の旗のもとで、私たち子どもは団結する。

新しい社会のなかで、明るく清い平和の権利を持つ。

国家のすべての子どもは幼稚園に通い、鳥が賑やかに歌うようにお喋りする。

大勢の子どもたちは、みな兄弟だ。

子どもの顔には笑顔があふれ、きれいな洋服を身に着ける。

学校は楽しいな。」

ヘン・サムリン政権下カンボジアにおける教育改革と教科書にみる国家像（羽谷）

（1979年印刷芸術科第3課「尊く清い革命の旗のもとで」筆者翻訳）。

革命を鼓舞する内容とかがわって、児童が舞台の上で歌いながら踊るパフォーマンスが掲載された（写真6）。児童の頭上では新政権のシンボルである国旗が揺れている。

中学校段階では、ポル・ポトの虐殺を想起させる「首切り集団を追放するために団結する」という政治的なテーマが登場した。「祖国を愛する」、「祖国を守る」など国家の枠組みを意識させる内容も学習した。写真7を見てみると、女子生徒がカンボジアの民族衣装を身に着け踊っている様子が見られる。衣装は、サンポットと呼ばれる円筒状の腰巻と白いシャツである。腰には、メッキ素材のベルトを着けている。これは、現在でも古典舞踊および大衆舞踊の踊り手が身に着ける衣装・装飾品である。このように芸術科の教科書には、祖国の文化様式をビジュアルに示す挿絵が掲載された。

写真6 芸術の教科書に掲載された児童学習発表の写真



出所 筆者所蔵。

写真7 芸術の教科書に掲載された女子高校生が踊る写真



出所 筆者所蔵。

(2) クメール語の教科書

ここでは、1979年に印刷された小学校3年生のクメール語の教科書を取り上げる。表8に示すとおり、クメール語の教科書は全72課から構成された。内容は、物語29課、音読6課、歌1課、作文10課、文法12課、歴史14課の6領域であった。これら6つの領域を横断して扱っている主要テーマは、ボル・ポト時代に関する記述(全8課)であった。たとえば、「ボル・ポト／イエン・サリによる殺人」(第4課)には、以下の読み物が掲載された。写真9は挿絵である。

(例2) 「ボル・ポト／イエン・サリによる殺人」(第4課)

「チャイニーは少し泣き、涙をふいた。そうすると、また涙があふれてきた。

私は、やつらがやっているのを見てしまったのです。林のなかで私の弟を殺すところはとても残酷でした。弟を殺してしまうと、やつらは弟の肉と骨を切り捨ててしまったのです。私は母にこのことを報告しました。母が弟の死体を見に行くと、やつらはさらに母を木に縛りつけ、殴り、悪事を働きました。そして母は死んでしまったのです。私はとても心細くなり、もう一人の弟を呼びに家へ戻りました。そして、弟に村を出るよう言いまし

ヘン・サムリン政権下カンボジアにおける教育改革と教科書にみる国家像（羽谷）

た。するとやつらは弟を追っかけ、殴り、ピストルで殺してしまったのです。私は村を出て別の村—ポーサット州のロヴィアン村まで走って逃げました。そこで、私はカンプチア救国民族統一戦線に出会い、友好的なベトナム軍に遭遇したのです。私は生き延びたのだ！しかし、私は父、母、兄弟はもうこの世にはいないのです。家族がとても恋しいです。やつらが肉を切り取って赤い血で染まった弟の死体は、私の頭から離れません。本当にそこは残酷な林です。この3年間、私たちの兄弟姉妹の300万人はみな殺されてしまったのです。だから、私たちはやつらを敵対し闘うための革命に心を向けるべきです。他方で、私たちは熱い怒りを鎮め、私たちの祖国の建設と保護に努め、国がいつまでも滅びることのないよう努めるべきです」。

（1979年クメール語第4課「ボル・ポト／イエン・サリによる殺人」筆者翻訳）。

写真9 1979年印刷クメール語の教科書に掲載されたチャイニー物語の挿絵



出所 筆者所蔵。

この物語は、少女チャイニーのまなごしを通してボル・ポトの殺戮を赤裸々に綴ったものである。チャイニーが、ボル・ポトの兵士から逃れた先で、新政権を支持するカンプチア救国民族統一戦線と劇的に出会う場面が印象的である。カンプチア救国民族統一戦線が少女の命を救ったというストーリーは、反ボル・ポト思想を伝える役割を担っている。

さらに、「蘇った国家の文化」（第53課）では以下の内容が記述された。

（例3）1979年クメール語第53課「蘇った国家の文化」

「カンプチア救国民族統一戦線の旗のもとで、私たちの国民文化は、みずみずしい生命を

表 8 1979 年印刷クメール語の教科書目次 (3 年生)

課		学習内容・読み物の題目	課		学習内容・読み物の題目
第 1 課	物	ボル・ポト, イエン・サリによるチャ イニ一家の殺人	第 37 課	歴	歴史の検証
第 2 課	音	多く学べ!大きく発展せよ!	第 38 課	物	カンボジアの鉄道列車
第 3 課	作	作文を書こう	第 39 課	音	忘れてはならない!
第 4 課	物	ボル・ポト, イエン・サリによる殺人	第 40 課	文	疑問文
第 5 課	文	子音	第 41 課	物	機械工場での作業①
第 6 課	歴	勇敢な戦士	第 42 課	作	作文を書こう
第 7 課	物	トゥール・スラエン処刑場	第 43 課	歴	新学期
第 8 課	音	稲作の仕事	第 44 課	物	機械工場での作業②
第 9 課	作	作文を書こう	第 45 課	文	はなし言葉①
第 10 課	物	トゥール・スラエン処刑場での拷問	第 46 課	物	カンボジアの漁業
第 11 課	文	音節	第 47 課	音	カンボジアとベトナムの友情
第 12 課	作	作文を書こう	第 48 課	作	作文を書こう
第 13 課	物	ボル・ポト, イエン・サリの医療	第 49 課	物	盆プチョム・ベン
第 14 課	作	作文を書こう	第 50 課	歴	革命に挑む
第 15 課	歴	9 月	第 51 課	物	新しいカンボジアの識字
第 16 課	物	中国共産党	第 52 課	文	はなし言葉②
第 17 課	音	私たちの田	第 53 課	物	蘇った国家の文化
第 18 課	文	母音の読み方	第 54 課	作	作文を書こう
第 19 課	物	私たち国民の新しい生活	第 55 課	物	民族滅亡のあとの仏教
第 20 課	文	作文を書こう	第 56 課	歴	新しい漁業
第 21 課	歴	強く賢い国民	第 57 課	物	新しい軍隊の発展
第 22 課	物	農繁期の稲作の仕事	第 58 課	歌	太陽が昇る
第 23 課	文	句・文節	第 59 課	文	命令文
第 24 課	物	動物を飼育する	第 60 課	物	カンボジアの海上保安軍
第 25 課	作	作文を書こう	第 61 課	作	作文を書こう
第 26 課	歴	ボル・ポトへの 非難	第 62 課	物	一人の勇敢な少女
第 27 課	物	たばこの栽培	第 63 課	歴	革命農業
第 28 課	音	勇敢な軍隊	第 64 課	物	私たちの友人としてのベトナム
第 29 課	文	文の書き方	第 65 課	音	ボル・ポト, イエン・サリが殺した 300 万人の人々
第 30 課	物	バット・ドムボン州の稲作	第 66 課	物	紅河デルタの稲作
第 31 課	作	作文を書こう	第 67 課	歴	社会主義国ベトナム
第 32 課	歴	もう一つの新しい勝利	第 68 課	物	首都モスクワ
第 33 課	物	コショウの栽培	第 69 課	文	文法のまとめ (句と文章)
第 34 課	文	疑問文	第 70 課	物	キューバの風景
第 35 課	物	塩の生産	第 71 課	歴	アンコール時代の労働者
第 36 課	作	作文を書こう	第 72 課	物	カンボジアと社会主義の国々

出所 教育省 (1979) 「クメール語」の教科書をもとに筆者作成。

凡例: 物 = 物語, 音 = 音読, 歌 = 歌う, 作 = 作文, 文 = 文法, 歴 = 歴史

吹き返した。それはまるで、たくさんの色を混ぜ合わせながら優美に咲く大輪の花のようである。芸術家はわずかしか生き残っていない。文化を失った怒りは激しく燃え、恨めしく、民族がこれを忘れ去る日は訪れない。芸術家たちは新しい芸術を学び、練習し、この困難を乗り越える努力をするであろう。熟練した技は称賛に値するのだ。これまでに、カンボジア舞踊の公演が一度行われた。踊り子たちは器用に舞い、所作は止まることなく続き、非の打ちどころがなかったほど美しかった。たとえば、踊りには大衆舞踊、古典舞踊がある。とくに、アンコール王朝時代に古典舞踊は大切に扱われ、神の楽園の舞や天女アプサラの舞などがあった。舞踊家の舞台での踊りはみずみずしく新鮮で、まるで本物の天女が天界から舞い降りてきたようであった。演目の途中では、歌と伴奏がとても美しい音を奏でた。私たちは、このような素晴らしい踊りを誇りに思い、芸術が発展を遂げていくよう、国家の芸術の魂を大切に保護していくべきである」。

（1979年クメール語第53課「蘇った国家の文化」筆者翻訳）。

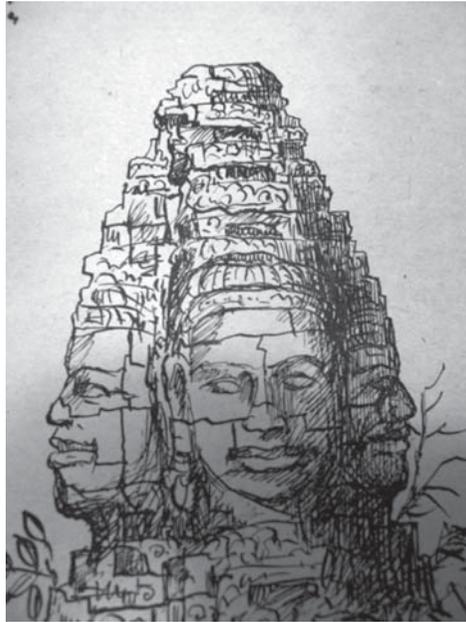
読み物「蘇った国家の文化」は、ボル・ポトがアンコール王朝から続いてきた文化を破壊したことを批判した。そうして失われたカンボジアの国民文化を取り戻すことができるのは、新政権であることを訴えた。生き残った国民が、新政権とともに国民文化を復興していく必要があることを強く意識させる内容であった。さらに、この読み物では、カンボジアが誇るべき国民文化のひとつに舞踊があることをあらためて示した。大衆舞踊と古典舞踊が具体的に取り上げられ、なかでも古典舞踊の重要性を強調した。写真10には、アンコール遺跡に描かれた舞姫の浮彫りを左側に描き、古典舞踊の踊り手を右側に掲載した。2つの女性は同じスタイルの

写真10 1979年印刷クメール語の教科書に掲載された踊り手の挿絵



出所 筆者所蔵。

写真 11 1979 年印刷クメール語の教科書に掲載されたアンコール遺跡の挿絵



出所 筆者所蔵。

衣装と装飾品を身に着けている。片手を挙げ、もう片方の手が下腹部に位置している所作もほぼ同じである。2人の踊り手を比較さて、アンコール王朝から古典舞踊が継承されてきたことをビジュアルに示した。また、写真 11 にはアンコール遺跡を描き、カンボジアがアンコール王朝に繋がるいにしへの歴史を持つことを示した。

(3) 道徳と政治教育の教科書

ここでは、1982年に印刷された5年生（中学校1年生）の道徳と政治教育の教科書を取りあげる。表 12 には全 28 課の内容を示した。ポル・ポト批判は1つの課で取り上げるにとどまり、「革命」「闘争」「社会主義」の政治とかかわる課が多く取り上げられた。「祖国」「国家」「国民」が11の課において扱われた。なかでも、先祖以来住んできたというニュアンスをもつ「祖国」というキーワードが目立つ。たとえば「祖国に住む多様な民族を愛する」（第4課）や「祖国の文化を愛し、誇りをもつ」（第5課）。他方、「国家」は「新しい国家」や「国家の発展」という未来を想起させる言葉とともに用いられた。

表 12 1982 年印刷 道徳と政治教育の教科書目次（5 年生＝中学校 1 年生）

課	題目
第 1 課	私たちの家族を愛する
第 2 課	私たちの学校を愛する
第 3 課	祖国を愛する
第 4 課	私たちの祖国に住む多様な民族の人々を愛する
第 5 課	私たちの祖国の文化を愛し、誇りをもつ
第 6 課	新しい国作りの闘争のなかで私たちの伝統に誇りをもつ
第 7 課	ボル・ポト／イエーン・サリ／キュー・サンパンの反動主義的グループや家族、学校、祖国を破壊した中国の思想を拡大した政治グループに反対する
第 8 課	革命の遺産を守り、家族の幸福と国民の幸福を願う
第 9 課	ベトナムとラオスとそのほか社会主義国家との確かな団結
第 10 課	国家を愛する新しい市民としての自己を確立する
第 11 課	両親と祖父母の言いつけを聞き、敬う
第 12 課	両親と祖父母を大切にする
第 13 課	兄弟、姉妹を愛する
第 14 課	国家の発展のために努力する
第 15 課	私たちの家族に新しい文化を紹介する
第 16 課	両親や近所の人を助け、守る
第 17 課	国民と家族の幸福のために闘う
第 18 課	年輩者を敬う
第 19 課	子どもを愛する
第 20 課	女性を敬う
第 21 課	確かな友情
第 22 課	祖国のために闘う兵士と革命軍について知る
第 23 課	障がい者や不運な人を助ける寛大さをもつ
第 24 課	祖国を敬い保護する
第 25 課	国民の気高さを敬い愛する
第 26 課	まじめで、献身的な、善良であること
第 27 課	周囲の人の幸福を願って生きる
第 28 課	悲劇を繰り返さない

出所 教育省（1982）「道徳と政治教育」の教科書をもとに筆者作成。

（例 4）1982 年道徳と政治教育第 5 課「私たちの祖国の文化を愛し、誇りを持つ」

「私たちの祖国には、確固たる国民文化がある。私たちは誇りを持ち、私たちの文化がより善く、素晴らしいものになるよう毎日、切磋琢磨していくべきである。私たちの文化には、いにしへの遺跡、工芸美術、エレガントな彫刻、歴史、とくにアンコール・ワットがある。プレアハ・ヴィヒア寺院も素晴らしい。国立博物館にはいにしへの品もあり、非常に質が高い。芸術には舞踊もあり、踊り子はたおやかで天賦の才能を身に付けている。カ

ンブチア人民共和国は、私たちの文化を発展させる確かな信念を持っている。私たちの文化を高めていくための強い希望である」。

(1982年第5課「私たちの祖国の文化を愛し、誇りを持つ」筆者翻訳)。

読み物「私たちの祖国の文化を愛し、誇りを持つ」は、カンボジアの文化として遺跡、工芸美術、彫刻、舞踊を挙げ、それぞれの素晴らしさを説明した。アンコール王朝時代に建立されたアンコール・ワットを取りあげ、これを国民に帰する文化として規定した。本文には、また、タイとの国境付近にあるプレアハ・ヴィヒア寺院も登場した。プレアハ・ヴィヒア寺院は、現在でも領有権をめぐり、カンボジアとタイとの間に争いを招いている。プレアハ・ヴィヒア寺院をカンボジア文化のひとつとして取りあげることで、タイとの確執を呼びおこし、カンボジアの人々の民族意識に訴えようとした。1982年に印刷された道徳と政治教育は、第5課「私たちの祖国の文化を愛し、誇りを持つ」のみならず、第3課「祖国を愛する」、第6課「新しい国作りの闘争のなかで私たちの伝統に誇りを持つ」のなかでもナショナリズムの覚醒を目指した。

4. 考察

以上ここまで、本稿では、第一に、ヘン・サムリン政権における政治思想を概説し、第二に、1980年教育制度改革の足取りを追い、第三に新政府が望ましいと考える国家像が、教科書のなかでどのように描かれたのかについて考察を進めてきた。本稿では、国家のあり方を検討するにあたって、とくに芸術科、クメール語、道徳と政治教育の3つの教科書を取り上げた。

芸術科の教科書のなかでは、革命、闘争、労働、戦争と平和という政治イデオロギーとかわるトピックが扱われた。芸術科という教科ではあるが、児童・生徒に期待されたのは、芸術的な感性を身に着けるというよりは、ヘン・サムリン政権の政治理念つまり社会主義政治理念を理解することであった。

他方、クメール語と道徳と政治教育の教科書において、「国家の文化」や「祖国の文化」が取り上げられた。そのような文化は、カンブチア救国民族統一戦線やカンブチア人民共和国というヘン・サムリン政権を支持する枠組みのなかで、保持・発展していくものであるとされた。クメール語および道徳と政治教育のどちらの教科書の記述においても、カンボジアの文化を象徴する舞踊家たちが美しく舞う様子が記述された。踊り手は「天界から舞い降りてきたよう」、「たおやかで天賦の才能を身に着けている」と称賛された。そして、このような踊りを愛し、誇りに思うべき、発展させるべきと結んでいる。クメール語、道徳と政治教育の教科書のなかで、踊りを含むカンボジアの文化は、ナショナリズムを喚起し、生き残ったカンボジアの若い

国民を団結させ、統合する装置としての役割を担ったのであった。

おわりに

ヘン・サムリン政権が樹立したばかりの1980年に実施された教育制度改革は、4・3・3制を採用した。初等教育の修学年限を短縮する形で再開された国民教育は、より多くの若い国民を学校教育に呼び戻すことにねらいがあった。そして、学校教育に期待されたことは、新政府の政治的イデオロギーを理解させること、教育を通じて国民統合を図ることであった。

本稿では、芸術科、クメール語、道徳と政治教育という限られた教科書を中心に1980年代前半における教科書のなかの国家像を検討した。1980年後半にむけて、教科書の記述がどのように変化していくのかを今後の課題としたい。

注

- 1) ボル・ポト政権下で処刑されたのは約50万人から100万人と推計される。その他、強制労働、病気、飢餓のために命を落とした。犠牲者の詳細はKiernan (1996)を参照。
- 2) コロク・ヴィチェット・ラタ (2003)「ボル・ポト後カンボジアにおける教育システム再構築に関する一考察—ベトナム化と再クメール化の過程に注目して—」『教育学研究』70巻 第3号 383—392頁。
- 3) 天川直子編 (2001)『カンボジアの復興・開発』日本貿易振興会アジア経済研究所。
- 4) 筆者は2003年5月から2005年10月まで王立プノンペン大学に留学し、長期現地調査を実施した（平和中島財団奨学生）。その後も継続的に現地調査を実施している。
- 5) カンプチア人民共和国憲法において、カンボジアの復興を進める国家統治機構として、国民議会が国家の最高機関と規定された。このほか行政府として閣僚評議会が設置され、内閣官房と国立銀行および14の省が新たに設けられた〔高橋2001, 91—93〕。文化芸術を管轄するのは情報文化省であった。
- 6) 筆者が入手した1982年小学校4年生、1982年前期中学校1年生、1984年前期中学校2年生の道徳の教科書は「道徳と政治教育」というタイトルである。一方、1988年小学校5年生の道徳の教科書は「道徳」に変化し、政治教育の文言が削除された。

参考文献一覧

〔日本語文献〕

- 天川直子編 (2001)『カンボジアの復興・開発』日本貿易振興会アジア経済研究所。
——— (2004)『カンボジア新時代』日本貿易振興会アジア経済研究所。
岡田知子 (1988)「1980年代の社会主義政権下におけるカンボジア現代文学 一民心獲得を狙った政治宣伝の道具—」慶應義塾大学『言語文化研究所紀要』第30号 71—92頁。
コロク・ヴィチェット・ラタ (2001)「カンボジアの教師教育に関する一考察:制度的な発展と要請基準」〔名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (教育科学)』48巻1号 57—69頁。
——— (2003)「ボル・ポト後カンボジアにおける教育システム再構築に関する一考察—ベトナム化と再クメール化の過程に注目して—」『教育学研究』70巻 第3号 383—392頁。

- コロク・ヴィチュット・ラタ & 西野節男 (2009a) 「カンボジアにおける高等教育の拡大とプライベート化—現状と問題—」『現代カンボジア教育の諸相』東洋大学アジア文化研究所 27—52 頁。
- (2009b) 「カンボジアにおける教員養成制度の現状と改革の歩み」『現代カンボジア教育の諸相』東洋大学アジア文化研究所 53—86 頁。
- 佐藤奈穂 (2007) 「カンボジアにおける土地登記の進展と女性の権利」龍谷大学アフラシア平和開発研究センター アフラシア研究 No.4 1—8 頁。
- 高橋宏明 (2001) 「近現代カンボジアにおける中央・地方行政制度の形成過程と政治主体」天川直子編『カンボジアの復興・開発』日本貿易振興会アジア経済研究所。
- 羽谷沙織 (2008) 「カンボジア古典舞踊教育にみる「クメール文化」の創出」『アジア経済』日本貿易振興機構アジア経済研究所 第49巻第10号 31—56 頁。
- (2009a) 「開発下カンボジアにおける古典舞踊と自文化をめぐる教育」『現代カンボジア教育の諸相』東洋大学アジア文化研究所 143—174 頁。
- (2009b) 「カンボジアの教育制度」『現代カンボジア教育の諸相』東洋大学アジア文化研究所 3—26 頁。
- ミシリビエッチ・エバ (1992) 『NGO が見たカンボジア—国際的な弱い者いじめ—』栗野鳳 (監訳) JVC [日本国際ボランティアセンター]。
- 四本健二 (1999) 『カンボジア憲法論』勁草書房。

[英語文献]

- Ayres, M.D. (1999) "The Khmer Rouge and Education: beyond the discourse of destruction", *History of Education*, Vol.28, No.2, June.
- (2000a) *Anatomy of a Crisis: Education, Development, and the State in Cambodia 1953–1998*, Honolulu, HI: University of Hawaii Press.
- (2000b) "Tradition, Modernity and Development of Education in Cambodia", *Comparative Education Review*, Vol4, November.
- Clayton, T. (2000) *Education and the politics of language: Hegemony and pragmatism in Cambodia 1979–1989*, Hong Kong, University of Hong Kong, Comparative Education Research Centre, CERC Studies in Comparative Education No. 8.
- Kiernan, B. (1996) *The Pol Pot regime: race, power, and genocide in Cambodia under the Khmer Rouge, 1975–79*, New Haven: Yale University Press.
- Va, V. (2006) "The Development of Basic Education in Cambodia 1979–2003: A critical Review", Universiti Kebangsaan, Malaysia (修士論文)。

[クメール語文献] (クメール語の文字順)

- ក្រសួងអប់រំ (教育省) (1979a) ចំរៀងនិងកំណត់ (歌と詩 就学前教育段階から後期中等教育段階)
- (1979b) រៀនអក្សរថ្នាក់ទី៣ (クメール語 3年生)
- (1982) សីលធម៌និងអប់រំនយោបាយថ្នាក់ទី៥ (道徳と政治教育 5年生)
- (1987a) កម្មវិធីបឋមសិក្សាចំនេះទូទៅ (初等教育カリキュラム)。
- (1987b) សំរេចសាលារៀនចំនេះទូទៅ (普通教育制度に関する政令) "កម្មវិធីបឋមសិក្សាចំនេះទូទៅ" (初等教育カリキュラム), pp.4-7.

ヘン・サムリン政権下カンボジアにおける教育改革と教科書にみる国家像（羽谷）

——（1988） សីលធម៌ថ្នាក់ទី៥（道徳5年生）

រដ្ឋកម្ពុជា（カンボジア国）（1989） ទិសដៅនិងការកម្រិតសិក្សា1989—90（1989年—90年度活動方針）

សាធារណរដ្ឋប្រជាមានិតកម្ពុជា（カンボジア人民共和国）（1982） សន្និបាតទូទាំងប្រទេសលើកទី៣（第3回宣伝・文化省年次総会）

——（1978） សេចក្តីថ្លែងការណ៍រណសិរ្សសាមគ្គីសង្គ្រោះជាតិកម្ពុជា（カンボジア救国民族統一戦線・報告書）.

（羽谷 沙織，立命館大学国際教育推進機構准教授）

Redefining Cambodia; Heng Samrin's School Textbook Reform in the Early 1980's

In announcing and celebrating the establishment of the People's Republic of Kampuchea in January 1979, PRK President Heng Samrin addressed the importance of shattering all influences of the barbaric genocidal regime of Pol Pot. He strongly focused on the need to rebuild the education system in Cambodia. In 1980, new education reforms were instituted and students started to undergo a system of four-year primary education, three-year lower secondary education and three-year upper secondary education.

This paper will discuss the Cambodian education reform and curriculum in the early Heng Samrin period and examine how PRK redefined how the nation should be presented in government-designated textbooks. In this study, Art, Khmer and moral education textbooks will be analyzed to see what sorts of ideologies were treated as indispensable under Heng Samrin's regime. Translating these three textbooks above will reveal the government's political preferences and intentions.

(HAGAI Saori, Associate Professor, International Office of Ritsumeikan University)